

平成24年6月1日

NO-3

八王子市立第五小学校

校長 山口 菜穂子

五小HP <http://hachioji-school.ed.jp/dai5e/>

『人とのかかわりは感謝から』

校長 山口 菜穂子



5月26日。晴天の下、今年度の運動会が実施されました。予定通り土曜日に開催できましたので、たくさんの来賓・地域・保護者の方々に囲まれ、盛大な運動会となりました。ありがとうございました。子供たちは、大いに自分の力を発揮し、友達と協力し、暑い一日でしたが、あきらめずに全力尽くしてがんばり抜きました。結果は負けでも、順位が思うようでもなく、誉めてあげてほしいと思います。それが、次への意欲につながります。

また、当日はPTA役員・委員さん方、ソフトボール部の方々には自転車整理や受付・接待・写真撮影等々、運動会を支えていただきました。片付けを率先してお手伝いいただいた保護者・地域の方もいらっしゃいました。みなさんでつくった運動会でした。ありがとうございました。

さて、6月。睦月。ふれあい月間です。

私たちはともすると、自分の力を過信し、おごり高ぶって生きてはいないでしょうか。自分だけで、自分の家族だけで生きていける。と思っではないでしょうか。

こんな話を聞いたことがあります。ある保護者が、担任に「先生、うちの子にあいさつすることを強要しないでください。」と、頼んだというのです。ニュースにもなった「給食の時の『いただきます。』を言わせないでほしい。」という話が重なりました。自分や家族の者が働いたお金で、生計を立てているのだから誰にも迷惑をかけていない。なぜ、あいさつ(付き合い)をしなくてはいけないのか、と言う主張です。

私たちは生きていくだけで、様々な人や物に助けられています。支えられています。命を頂き、自分の生を生きています。洋服を着、水道の水で顔を洗い、ご飯を食べ、靴を履き、道を歩き、電車やバスや車に乗って移動し、道具を使って勉強・仕事をし、様々な楽しみも味わっています。しかもほとんどが共有しているものです。つまり、私は、「生きる」=「迷惑をかける」=「世話になる」と思っています。反対に迷惑をかけず、世話にならずに生きてはいけません。

互いに迷惑をかけながら生きていくことを認識すると、感謝の気持ちが自然に生まれます。感謝の気持ちは、自分ができることは返していきたい、自分ができる時は助けたいと思います。それが「かかわり」「ふれあい」の出発点であると考えます。

もちろん、「かかわり」からけんかやいざこざが起きもします。しかし、そこに私たちは知恵を授かり、学び・成長していくのです。感謝の気持ちをもてば、人は人とかかわることを肯定的に実践・解決し、かかわりながらその大切さを、喜びを、楽しさを改めて体感するのです。

感謝の気持ちから出発する「かかわり」「ふれあい」を広げ、素敵な学級・学校・地域づくりにつなげていきたいと考えます。

6月の生活目標 遊びのきまりを守ろう

生活指導主任 江藤 直子

五小には、4月にご家庭に配布した「五小のきまり」の他に「五小の遊びのきまり」(各教室に掲示)があります。子供たちには、休み時間に校庭で思いっきり体を動かして遊ぶように指導しています。全校児童がけがなくみんな仲良く遊ぶためには、一人一人がきまりを守って遊ぶことが大切です。梅雨に入ると室内遊びが増えますが、室内では走り回らないなど室内での過ごし方のきまりも守って